

私が鬼丸であるための 人生を楽しむ責任と覚悟



49歳2児の父親、埼玉に住んでいる落語家の三遊亭鬼丸です。「シニアライフ案内士」の皆さんへナビゲーターの私からお届けするメルマガジンです。早いもので第10号、今年度の最終号です。

さて、自分が世間の目にどう映っているか、皆さんは考えたことがありますか。私は、落語家になった理由やこの歳にして落ち着きがない理由などをよく尋ねられます。次々に湧き出てくる思いつきや、拾い集める話題のタネがどこにあるのか、世間の人には不思議に思うらしいのです。

世間がいうところの常識に対して、その逆を言葉にする、考えるのが、鬼丸流です。これまでの人生経験や出来事が複雑に絡み合っ、今の鬼丸が出来ているわけですから、その源を説明するのは簡単ではありません。

私は今年で50歳になります。人生100年といわれる時代ですから、ちょうど人生の折り返し点というわけです。もつれ合ったこれまでの人生を解きほぐして一つ一つを検証してみると面白いネタになるかもしれない、などと考えています。

人の行く裏に道あり花の山——。誰も花見に行かな

いような場所にこそ、満開の桜に出合うチャンスがある。投資の世界の格言ですが、父はこれを座右の銘にするような人です。

日航ジャンボ機墜落事故の翌日、航空券のキャンセルが相次いでいるというニュースに、父がこう言いました。「いつにも増して慎重に整備するんだから、今日ほど安全な日はないだろうに」。私は中学生でしたが、妙に納得しました。以来、人が行かない道を選ぶように生きてきました。父の教えは、常識の逆を考える鬼丸流の着想や発想につながっていると思います。

私は、常に素のままの鬼丸で生きています。SNSも同じで、伝えたいことをその時の気分に合わせて発信しています。フォロワーは2万超え。発信力はそれなりにあって、時にはかみつかれることもあります。でも、それを含めて発信すること、伝えることを楽しみたいと思っています。その一方で、発信する責任の重みも感じています。大切なのは、かみついてきた相手が誰であろうと、きっちり対応する覚悟を持つことです。

人生を楽しむための責任と覚悟。その大切さをお伝えして、最終号を締めたいと思います。ご愛読ありがとうございました。